

令和3年度 家庭の教育力に関する調査結果

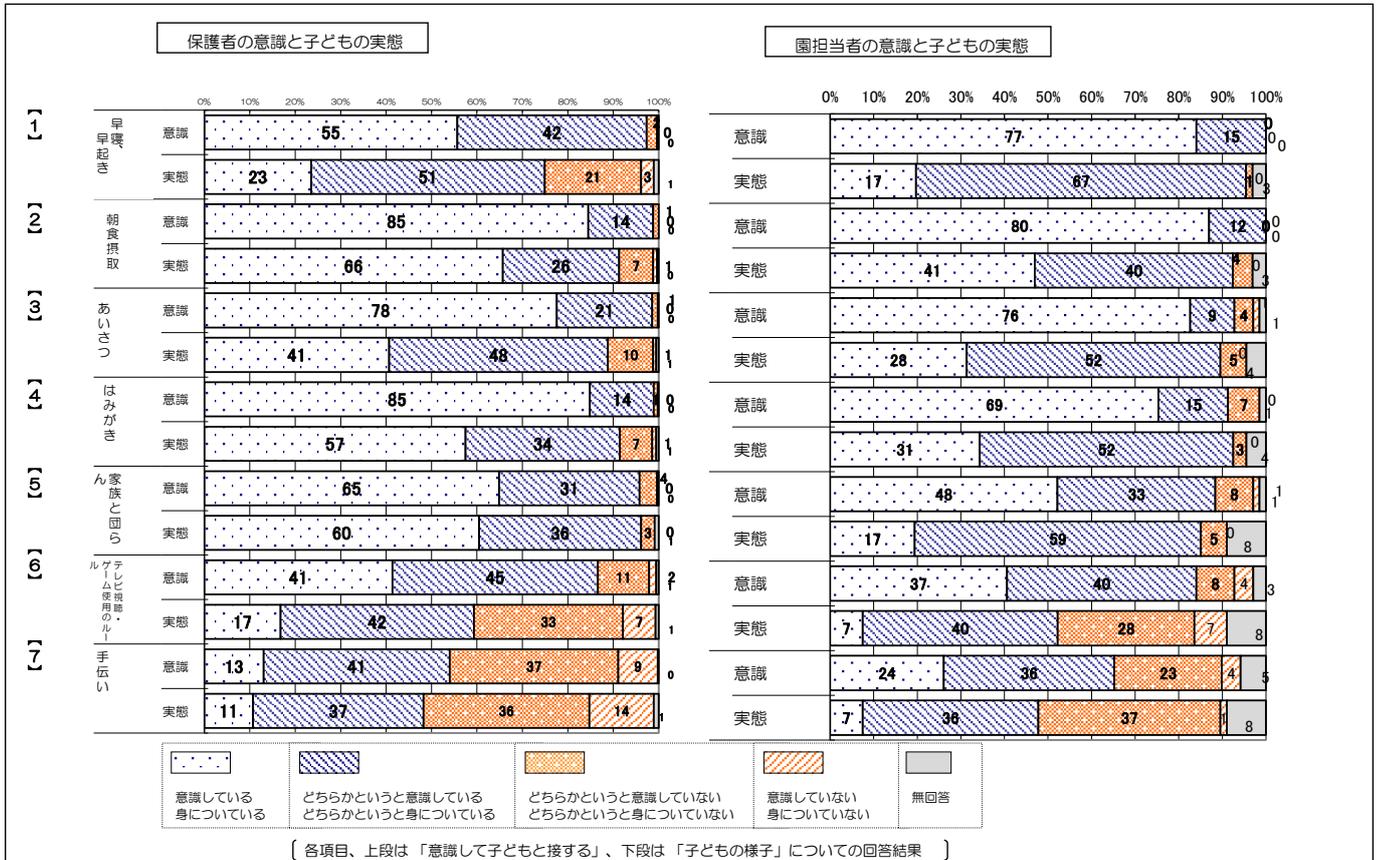
～令和4年2月実施～

・・・7項目についての意識と実態・・・

市内の保育園・幼稚園に在席する年長児の保護者・園の担当者を対象に、右の7項目について、
 ① 意識して子どもと接しているか
 ② 子ども様子はどうなっているか
 という設問で、アンケート調査を実施しました。
 45園、約85%の保護者から回答が届き、以下のような結果となりました。
 新型コロナウイルス感染症拡大している状況の中でしたが、アンケートにご協力をいただきました。

<調査項目>

- 【1】 早寝、早起きをする
- 【2】 朝食をしっかり食べる
- 【3】 あいさつをする
- 【4】 歯磨きをする
- 【5】 家族と囲らんする
- 【6】 テレビ視聴・ゲーム使用のルールを決めて守る
- 【7】 手伝いを決めて毎日行う



・ 回答結果から ・

- ・ 「どちらかという身についている」まで含めて7項目を平均すると、78.8%の保護者、70.5%の担当者が、子どもに身についていると捉えている。（保担合わせた平均は、74.65%）
- ・ 基本的な生活習慣の定着状況に絞り、【1】【2】【3】【6】の4項目を平均すると78.4%の保護者、73.0%の担当者が、子どもに身についていると捉えている。（保担合わせた平均は、75.70%）
- ・ 子どもの実態の捉えでは、「どちらかという身についている」まで含めると、保護者と担当者では同じ傾向にあるが、保護者のほうが保育者よりもできていると肯定的にとらえている割合が高い。
- ・ テレビ視聴・ゲーム使用のルールは、意識して取り組もうとしている保護者が増えてきているが、身についていないと捉える保護者が多い。（身についていると捉えている保護者：59%）コロナ禍で、デジタル機器の使用が増えている傾向にある。
- ・ 「手伝い」について、他の項目と比べ大人の働きかけが弱く、実態も子どもに身についていないと捉えられている。
- ・ 保護者から見た子どもの実態における肯定的回答（「身についている」）での比較では、囲らんが96.0%と高く、次いで、歯磨き、朝食摂取、あいさつとなっている。
- ・ 早寝・早起きの項目では、ほとんどの保護者が意識してかかわっている、約1/4の保護者が身についていないと捉え、思うようにならない実態がある。
- ・ 記述から、共働きや核家族が増える中、子どもとのコミュニケーションを大切に、ふれあいの時間を工夫してとっている様子がうかがえた。
- ・ 新型コロナウイルス感染症対策で、園の様子を見に行ったり先生方と話したりする機会が少なかったと思うが、行事など工夫してできることを行えた。

・ 今後の課題 ・

- ★ 「家族でニコニコチャレンジ」は継続し、家族での取り組みを促していく。
- ★ 基本的な生活習慣の必要性を示し、家族との囲らんの中で話題にしてもらう等、啓発していく。
- ★ 手伝いの実施については、「自己有用感」「自立心の育成」「親子でのふれ合い」といった観点から重視し、幼児期にふさわしいお手伝いについても発信していく。
- ★ 各園や関係機関と連携し、家庭の教育力向上への取組を継続していく。
- ★ メディアの使用等については、メディアの利用・活用が重要視されている社会であることを踏まえつつ、幼児期は使いこなすのではなく、使用ルールを家族で決め、守ることの大切さを発信していく。（具体的なルールは家族の実態に合わせ、話し合って決めることを促す。）
- ★ 「ニコニコガイド」等活用し、幼児期に育みたい力（非認知能力）について周知を図る。